



「木が 3 本あれば森」宮脇先生に森づくりの大切さを学ぶ

～ 「いのちの森」の植樹・育樹講演会 開催 ～

本日、豊島区において、「『いのちの森』の植樹 育樹講演会」が行なわれた。この取り組みは、日本一の高密都市である豊島区が、少ない土地に植樹をし、緑豊かな環境都市となることを目指して一昨年からスタートしたプロジェクト「グリーンとしま再生プロジェクト」のひとつだ。

都市の緑は、生活に潤いや安らぎを提供するだけでなく、ヒートアイランド対策などの都市環境の改善など多様な役割を果たしている。また、東日本大震災を契機に、延焼を防ぎ、人命を守る防災面において優れている「森」の大切さが見直されてきている。しかし、豊島区は 23 区中一人当たりの公園面積が最も小さく、緑被率も 19 番目(12.9 パーセント・平成 21 年度調査)と低い。「森」をつくるには、長い時間と広大な土地が必要に思われるが、「グリーンとしま再生プロジェクト」では、土地本来の植生を重視して多種類の樹種を混ぜる植樹方法を確立した横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏に協力を依頼。これまでの 3 年間の活動で、区内の小中学校、施設、公園等に点在する小さなスペースにシイ、タブ、カシなどの苗木を約 27,000 本植樹した。生育はおおむね順調で、豊島区において着実に「いのちの森」が育っている。

今回は、東日本大震災被災地の状況を踏まえ、森づくりの大切さと「いのちの森」を守り育てることについての講演と、昨年 5 月、会場の豊島清掃事務所に植樹した苗木の生育状況の確認などを行なった。担当者は、「生育状況はおおむね良いですね。このまま、この土地に合った小さな森が育って欲しいです。」と語った。

日 時	平成 23 年 9 月 23 日 (金曜日) 午後 2 時～	
場 所	豊島清掃事務所 (池袋本町 1-7-3)	
主 催	豊島区	
当日の様子 参加者の声 など	区内外から、さまざまな年代 100 名程の参加者が集まり、会場は大盛況だった。講演で、宮脇氏は時折ユーモアを交えながら、土地本来の木がつくる「いのちの森」が災害に対し有効なことや、全国で行われた植樹によって、小さな苗が数年後立派な森に育った様子などを紹介した。「自分や身近な人を守るためにも、少しのスペースにも木を植えてほしい。こういう狭い場所でも森はつくれる、という実績を、世界に誇れる例として豊島区から発信してほしい。」と結んだ。	
講師紹介	宮脇 昭 (みやわき あきら) 氏：植物生態学者。横浜国立大学名誉教授。現在、財団法人地球環境戦略研究機関 国際生態学センター長。40 年間にわたり森の再生のために、国内外 1700 ヶ所以上で森づくりに取り組んでいる。1990 年「日本植生誌」(全十巻)完成により翌年朝日賞。1992 年紫綬褒章。00 年勲二等瑞宝章。06 年第 15 回地球環境国際賞「ブループラネット賞」受賞。	
写 真 * 写真はメ ールで送り ます	苗の紹介をする宮脇氏 	昨年植えた苗の生育を確認する様子 
問 合 せ	環境政策課	